医療従事者のための職業感染防止対策

聖マリアンナ医科大学病院感染症センター
竹内　萌，山崎　行敬，國島　広之

KEY WORDS
●職業感染
●B型肝炎
●HIV
●インフルエンザ
●麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎

Occupational infection control in the healthcare workers.
Megumi Takeuchi
Yukitaka Yamasaki（助教）
Hiroyuki Kunishima（センター長，教授）

はじめに

現在，医療従事者の職業感染は肝臓疾患だけでも，年間で数十件以上が災害認定を受けており，今なお多くの職業感染事例が報告されている。薬剤師は医師や看護師と比較して，職業感染リスクは低いものの，近年は病棟で患者と接する機会も増加し，適切な感染対策が重要である。われわれ医療従事者は，標準予防策の遵守をはじめ，適切な個人防護具の着用やワクチンの接種などにより，患者への二次感染を予防している。医療従事者へのワクチン接種は，積極的に行うべきものではあるものの，医療従事者がその必要性と重要性を理解する必要がある。

Ⅰ．B型肝炎

1．B型肝炎ウイルス

B型肝炎ウイルス（hepatitis B virus；HBV）は，血液媒介感染をする病原体として最も感染力が高いといわれている。HBVは，針刺しや，患者に使用した鋭利物による切創，血液・体液の粘膜への曝露，小さな外傷や皮膚炎などバリアの破綻した皮膚への曝露でも感染が成立する場合がある。

HBVは遺伝子型としてA型～J型まで特定されている。日本では遺伝子型Cが多く，次に遺伝子型Bが続き，遺伝子型Cは遺伝子型Bに比べて予後が悪いと考えられている。最近，急性肝炎では海外から持ち込まれたと考えられる遺伝子型Aがみられており，遺伝子型BおよびCと比べて慢性化しやすい。治療では，遺伝子型A，BはC，Dに比べてインターフェロン（IFN）が効果的である[1)]。

2．ワクチン接種について

日本では，2016年10月からB型肝炎ワクチンは定期接種となっており，2016年４月以降に産まれた０歳児以降は３回（１シリーズ）の接種が行われている。

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.